

白山ろく民俗資料館 中期経営目標

(実施期間 平成24年度～平成26年度)

平成24年3月 策定

1 施設の設置目的

白山ろくの民俗資料の収集、保存及び展示並びに調査研究をすることを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

白山ろくの民俗文化や、自然、歴史に関わる資料を収集、保管するとともに、展示や普及、調査研究その他の活動を通して、全国有数の豪雪地帯で生きた先人たちの知恵を県民に紹介し、県民共有の知的財産として未来へ伝えることを役割としています。

3 事業内容

(1) 展示活動

江戸時代から明治にかけて建てられた6棟（うち県指定文化財3棟）の古民家を移築復元して公開するとともに、白山ろくを中心に収集した所蔵品の常設展示や、特定のテーマによる特別展（企画展示）を行っています。

(2) 普及活動

昔ながらの生活に触れてもらうために、出作り生活での焼き畑体験や栃の実割り、栃餅つき等の体験事業の実施、また特別展開催時にはテーマに沿った講演会を行っています。

(3) 収集、保存、調査研究活動

白山ろくの民俗文化の保存、継承のため、民具などの資料の収集、調査研究活動を行っています。

4 現状と課題

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

①施設の利用促進について

- ・白山ろくの観光客の導線の変化や、児童の減少により、入場者が徐々に減少し、現在はピーク時の7分の1近くになっています。特に利用者のうち団体見学者が減少していることから、今後は、団体見学者確保に向け、年齢層に応じた体験プログラムの提供や広報活動の強化に取り組む必要があります。
- ・白峰地区のイベントの来訪客に当館も立ち寄りいただけるよう、イベント会場で、当館の紹介看板の設置と入場割引券の提供を行うなど、誘客に努めていますが、さらに工夫し、効果を高めていく必要があります。
- ・高齢者の利用促進に向け、平成23年度に高齢者にターゲットを絞ったチラシの作成・配布や、付近の介護施設に直接出向き利用の呼びかけを行った結果、複数の介護施設からの利用がありました。より多くの高齢者に利用していただくため、地域の福祉関係機関と連携し、広報活動を更に強化する必要があります。
- ・当館前の国道を通る行楽客を呼び込むため、古く目立たない案内看板を更新するなど、PRに努める必要があります。

②サービス向上について

- ・来館者に満足いただけるよう、類似施設を参考に職員の資質向上などに取り組んできたところですが、さらに取り組みを強化していく必要があります。
- ・より多くの方に白山ろくの民俗文化についての理解を深めていただけるよう、館内の展示解説については、団体客だけでなく、より多くの来館者に提供していく必要があります。
- ・当館の園路は砂利道で、高齢者や車椅子利用者にとっては利用しにくい現状となっていますが、団体見学者の少ない日時に、自動車乗り入れ見学を許可するなど、見学環境の整備に努めてきました。今後とも、高齢者等が利用しやすい施設となるよう工夫が必要です。

(2) 施設運営の効率化について

- ・平成19年度から入場者の少ない冬期を休館にするなど、これまでも人件費や光熱水費の削減に努めてきたところですが、今後とも経費の節減・効率化に努めていくこととしています。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標

- ① 利用者数を3年間で8,000人にします。
- ② 利用者アンケートによる満足度を3年間で80%に高めます。
- ③ 利用者1人あたりの一般財源投入額を3年間で12%削減します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標	実績値	目標値(H26)
① 利用者数	(H20～H22平均) 7,115人	8,000人
② アンケート調査の満足度	(H22) 約7割*	80%
③ 利用者一人あたりの一般財源投入額	(H20～H22平均) 2,027円	1,764円

※聞き取りによるアンケートを実施

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

① 施設利用促進に向けた取り組み

- ・白峰地区のイベント開催時に看板の設置や入場割引券の提供だけでなく、イベント会場内で職員が、当館で栽培したカマシ(シコクビエ)、キビなど昔ながらの食材の提供や、わら細工工程のパネル紹介を行うなど、広報活動の工夫に努めます。
- ・小中学生の団体の利用促進に向けて、白山市内の学校を中心に、「昔の暮らし」をテーマにして、わら細工などの体験活動を取り入れた施設見学をPRするなど、広報活動の充実を図ります。
- ・高齢者の利用促進に向け、高齢者施設に出向き、わら細工などの実演を行って施設のPRを行う出前民俗資料館を実施します。また、館内のイベントや出前民俗資料館の実施の際に、近隣の保育園などに参加を呼びかけるなど、高齢者と子どもの交流機会の提供といった、施設の新たな魅力作りに努めます。
- ・パンフレットに年間事業計画のチラシを折り込み、周辺の商店や宿泊施設等に配置するほか、白山ろく少年自然の家と野外活動で連携し、小中学生の団体の利用促進に努めます。
- ・国道沿いの案内看板を更新し、簡潔明瞭で目を引くようなものにする事で、行楽客の誘客に努めます。

②サービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・来館者に満足して頂くため、定期的に職員研修会を実施し、職員の資質向上に努めます。
- ・団体来館者だけでなく希望される利用者全てに対して、館内の展示を分かりやすく解説します。
- ・高齢者や子どもが利用しやすい施設となるよう、施設内の案内看板を分かりやすいものに更新するほか、ベンチを設置するなど見学環境の整備に努めます。

(2)施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・引き続き、光熱水費等の経費の削減など、さらなる施設運営の効率化に努めます。

参考資料

1 施設の利用状況

(1) 利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

指標	H20	H21	H22
入場者数	6,674人	8,225人	6,448人

(2) 使用料の収入実績

項目	H20	H21	H22
入場料	865,200円	891,050円	835,450円

2 収支の状況

(単位：千円)

		H20決算	H21決算	H22決算	H23予算
歳出	施設管理費	16,879	17,708	17,992	16,513
	職員費	14,975	14,341	14,729	16,403
	計	31,854	32,049	32,721	32,916
歳入	入場料	865	891	835	925
	白山市負担金	2,400	2,400	2,400	2,400
	一般財源	28,589	28,758	29,486	29,591
	計	31,854	32,049	32,721	32,916

3 利用者1人あたりの一般財源投入額

	H20	H21	H22	平均
一般財源投入額 ①	28,589千円	28,758千円	29,486千円	29,591千円
職員費を除いた額 ①'	13,614千円	14,417千円	14,757千円	14,263千円
利用者数 ②	6,674人	8,225人	6,448人	7,115人
利用者1人あたりの一般財源投入額 ①÷②	4,284円	3,496円	4,573円	4,159円
職員費を除いた額 ①' ÷ ②	2,040円	1,753円	2,289円	2,027円

※職員費については、県全体で削減することとしています。

(知事部局で、平成23～27年度の5年間で150人程度の減)